

晩腐病 (Ripe rot)

Glomerella cingulata



被害の様子



(準備中)

発生生態

主に成熟期の果房に発生し、果実を腐敗させます。病斑上にはサメ肌状の小粒点が現れ、やがて鮭肉色で粘質の胞子塊により病斑全体が淡紅色～オレンジ色となって果実は腐り、ミイラ化します。6～7月にかけての感染が最も多く、雨により感染が広がります。

防除対策

雨よけ栽培により被害が少なくなります。菌の越冬源となる果梗の切り残しや巻きひげを除去します。薬剤防除は発芽前と落花期～袋かけ前に行います。果実への袋掛けを早めに行い果実感染を防ぎます。